

教 科	農 業	科 目	農 業 と 環 境	単位数	2
学 年	1 年	教科書	農 業 と 環 境 （実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 水稻の無化学肥料・無農薬栽培プロジェクトを中心とする体験的・探求的な学習活動を通して、農業と環境の関わりについて学ぶ。 ② 生育調査や自動水位計等を用いた生育診断などを通して、データに基づいた栽培管理の方法とスマート農業に関する知識・技術を学ぶ。 ③ 農産物の安全認証（GLOBALG. A. P.）に関する学習を通して、実習の安全や食品安全、環境保全等について主体的に考える態度を育成する。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業と環境を学ぶ	・農業クラブ活動について学習し、クラブ員としての自覚を養います。
	2 栽培と飼育のプロジェクト	・水稻の無化学肥料・無農薬栽培プロジェクトを通して、プロジェクト学習の基礎について学習します。
	3 栽培と飼育の基礎	・水稻栽培について、種子の予措、苗づくり、本田の耕耘、移植、除草、水管理などの基本的技術を学習します。
2	4 栽培と飼育のプロジェクト	・GLOBALG. A. P. 規範に基づいた食品安全・労働安全・環境保全に関する取組について学習します。
		・水稻栽培について、除草、水管理、収穫、乾燥、粃摺りなどの基本的技術を学習します。
3	5 私たちの暮らしと農業・農村	・GLOBALG. A. P. 規範に基づいた食品安全・労働安全・環境保全に関する取組について学び、これらについて主体的に考えて実践する態度を育成します。
		・自動水位計やドローンなどを活用したスマート農業の取組と、その意義について学習します。
課題	①夏休み課題…水稻の生育調査	
	②冬休み課題…レポート作成（水稻栽培の生育結果のまとめ）	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 農業と環境を学ぶ	・農業クラブの活動や組織について理解し、クラブ員としての自覚が身についている。 ・栽培や飼育に関する知識や技能を身に付けている。	・栽培や飼育についての科学的な根拠に基づいて創造的に課題を解決しようとしている。	・プロジェクト学習に必要な情報収集を主体的に行おうとしている。 ・栽培や飼育管理を継続的に行い、協働的に活動しようとしている。
2 栽培と飼育のプロジェクト			
3 栽培と飼育			
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・実習手帳の記録	・実習手帳の記録 ・発表状況
4 栽培と飼育のプロジェクト	・水稻栽培の基本的な技術を習得している。 ・スマート農業に係る取組について理解している。	・水稻の生育調査の結果や収量診断の結果をまとめ考察するとともに、文章や図、表を用いて表現できている。	・GLOBALG. A. P. 規範に基づき、食品安全に係る取組について主体的に考え、実践できている。
評価方法		・定期考査 ・実習手帳の記録 ・小テスト	・レポート ・実習への取組 ・発表状況

5 私たちの暮らし と農業・農村	・農業と食料供給の現状 や農業・農村の役割に ついて理解している。	・持続可能な農業のあり 方について、意見をま とめることができる。	・これからの社会に求め られる農業のあり方に ついて、主体的に考え ることができる。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・発表状況	・定期考査 ・レポート
内容のまとめりに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農 業 と 情 報	単位数	2
学 年	1 年	教科書	農 業 と 情 報		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指します。 ① 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	--

学期	単 元		学習内容・学習のねらい	
1	第 1 章 情報化	私たちの生活と農業の	- 私たちの生活における情報とメディアの特徴を学習し、適切な情報活用について理解を深めます。 - 情報社会とモラルについて学習し、情報リテラシーを身に付けます。 - 農業を支える情報を学習し、農業に応用できる情報を考える能力を養います。	
	第 2 章 コンピュータ	社会を支える		
2	第 3 章	コミュニケーションと情報デザイン	- 正確な情報収集と記録の重要性を学習し、ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。 - 近年の情報技術の発展による自動管理システム、ドローンの利用、その他自動化システムの仕組みを理解します。 - スマート農業の仕組みの理解と基本的なシステムの設計やプログラミング、人工知能について学びます。	
	第 4 章	スマート農業への展望		
3	第 5 章	農業情報の分析と活用	- 農業情報とはどのようなものか理解します。 - 農業の各分野における情報の種類や特徴を学び、情報の収集方法や分析・活用方法を学びます。 - プロジェクト学習及び発表等で必要となる情報処理能力を身に付けます。	
	第 6 章	農業学習と情報活用		
課題	①通常授業に関する課題（タイピング練習、小テスト、調べ学習等） ②夏季休業中課題（情報セキュリティに関するレポート作成） ③冬期休業中課題（ソフトウェア活用技術に関するレポート作成、検定試験対策等）			
評価の観点 評価規準		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

第1章 私たちの生活と農業の情報化	情報化する社会において情報とメディアの特徴を理解し、情報を円滑に活用していく知識を身に付け、情報社会におけるモラルを身に付けている。また、農業を支える情報の存在を理解できている。	適切なメディアの活用方法を判断することができる。また、情報モラルを順守することの重要性を思考し、情報リテラシーを理解した上で自らの意見を表現している。農業を支える情報の存在を考え表現している。	情報化社会の進展と情報の意義に関心を持ち、農業と情報技術との関わりについて探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートの記入内容、実技への取組等	小テスト、定期考査、レポート、発問への対応等	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
第2章 社会を支えるコンピュータ	コンピュータの基本的な構成を理解している。また、情報通信ネットワークやインターネットの特徴を知り、情報セキュリティに留意した情報活用技術を身に付けている。	コンピュータの基本構造を理解した上で、情報通信ネットワークやインターネットにおける留意点を思考し、判断できている。情報セキュリティを理解し、場面に応じて判断できる。	コンピュータの構造について主体的に理解しようと努め、情報モラルについて科学的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートの記入内容、実技への取組等	小テスト、定期考査、レポート、発問への対応等	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
第3章 コミュニケーションと情報デザイン	正確に情報を収集する方法を理解し、情報の受発信に関する技術を身に付けている。各種ソフトウェアの活用方法を理解し、技術を身に付けている。	正確な情報収集の技術や情報リテラシーについて考え、適切な手段の選択と表現ができる。また、場面に応じた適切なソフトウェアを判断することができる。	情報の取捨選択と実際の情報活用技術の習得を目指し、積極的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートの記入内容、実技への取組等	小テスト、定期考査、レポート、発問への対応等	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
第4章 スマート農業への展望	農業における自動化システムの重要性を理解し、人工知能を活用した、これからの農業の展開について理解することができる。また、システム設計やプログラミングの基本的な技術を理解できている。	農業の現状と課題について考え、これからの農業の在り方や方向性について思考し、農業従事者の負担軽減のために必要な方策を判断することができる。	現在の日本の農業における現状と課題に対して、情報技術を活用した解決について積極的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートの記入内容、実技への取組等	小テスト、定期考査、レポート、発問への対応等	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
第5章 農業情報の分析と活用	農業の各分野で応用できる情報について理解し、情報の分析技術を身に付けている。	農業の各分野における情報活用の方法について思考し適切な活用方法を判断できている。	農業の各分野における情報活用に関して積極的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートの記入内容、実技への取組等	小テスト、定期考査、レポート、発問への対応等	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
第6章 農業学習と情報活用	プロジェクト学習や研究発表に必要なコンピュータの機能や方法を理解し活用する技術を身に付けている。	プロジェクト学習で活用するソフトウェア等を理解し、状況に応じて適切に判断し表現できている。	プロジェクト学習に必要な情報活用技術について主体的に考え、探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートの記入内容、実技への取組等	小テスト、定期考査、レポート、発問への対応等	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
内容のまとめりと、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	測 量	単位数	4
学 年	2 年	教科書	測量（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 測量に必要な知識と技術を習得し、測定値の処理や測定機器の性質を学びます。また国土・環境保全など、環境の各分野に共通する基礎・基本を身に付けます。 ② 測量士補・測量士試験に対応した授業を行い、国家試験合格を目指します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 測量の関する法規と技術者倫理	・測量の果たす社会的な意義や役割を学ぶとともに、法令順守等の技術者としての倫理感を養います。 ・座標系や準拠楕円体、ジオイドについて学習し、地球上での位置の表し方を学習します。
	2 水準測量	・簡易水準測量実習を通して、主体的かつ協働的に取り組む態度を養うとともに、測量機器の基本的な操作方法と誤差の消去・軽減方法、測定値の誤差とその処理方法を習得します。
	3 地図編集と地理情報システム	・地図編集の原則を理解するとともに、地理情報システムの学習を通して、位置情報がスマート農業や防災計画等、多方面で利用されていることを学習します。
2	4 地形測量	・T SやGNSS測量機、MMS、T L S、ドローン、航空レーザ測量等による地形測量の方法を学習します。
	5 基準点測量	・セオドライトによる角測量実習を通して、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。また、T SやGNSS測量機を利用した基準点測量の方法を学習します。
	6 応用測量	・路線測量、河川測量、用地測量の基本的な測量方法を理解するとともに、実社会での活用例について学習します。
3	7 写真測量	・空中写真測量の原理や測定方法について学習するとともにリモートセンシング等のデータ活用について考察します。
課題	①測量士補試験の問題を中心とする復習課題を単元毎に課します。 ※その他、公共測量等の実際の現場で活用されることが少なくなった測量技術（平板測量）等については扱わない。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 測量の関する法規と技術者倫理	・測量法における位置の基準と基準面等の概念について理解している。	・測量法とその関連法規に基づいた測量技術者としての倫理的な思考ができる。	・測量に関する法規と技術者倫理について、主体的に学習しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況 ・レポート
2 水準測量	・水準測量の手順と誤差の消去・軽減法を理解している。 ・測量機器(電子レベル、オートレベル、チルチングレベル)を適切な手順で正確に操作できる。	・測量記録及び測量成果を適切にまとめることができる。	・測量の過程を振り返って誤差の要因について考え、改善しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト ・測量記録及び測量成果(レポート)	・定期考査 ・測量記録及び測量成果(レポート) ・実習中の取組状況	・実習における自己評価及び相互評価 ・レポート

3 地図編集と地理情報システム	・取捨選択、総描、転移などの地図編集の原則について理解している。 ・基本的なGISの用語と地理空間情報の活用について理解している。	・等高線の読み取りや図上距離と実距離の関係などの基本的な読図ができる。 ・地理空間情報の活用方法について考察できる。	・測量が果たす社会的意義や役割を実感して、粘り強く考え、生活や学習に生かそうとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト ・測量記録及び測量成果（レポート）	・定期考査 ・測量記録及び測量成果（レポート） ・発表状況	・実習における自己評価及び相互評価 ・レポート
4 地形測量	・MMS、TLS、ドローン、航空レーザ測量等の測量機器の特性を理解している。	・計測対象の性質や要求される精度等に基づき適切な測量方法について考察できる。	・近年定着しつつある技術について関心を持つとともに、測量成果の活用について考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・発表状況	・レポート
5 基準点測量	・測量機器の特性を理解し、基準点設置や計測技術について理解している。 ・基準点測量の手順と誤差の消去・軽減法を理解し、測量機器を正しい手順で正確に操作できる。	・計測対象の性質や要求される精度等に基づき適切な測量方法について考察できる。 ・測量記録及び測量成果を適切にまとめることができる。	・近年定着しつつある技術について関心を持つとともに、測量成果の活用について考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト ・測量記録及び測量成果（レポート）	・定期考査 ・測量記録及び測量成果（レポート） ・発表状況	・実習における自己評価及び相互評価 ・レポート
6 応用測量	・路線測量、河川測量、用地測量について、基本的な測量方法を理解している。	・地理空間情報の活用方法について考察できる。	・測量が果たす社会的意義や役割を実感して、粘り強く考え、生活や学習に生かそうとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・発表状況	・レポート
7 写真測量	・写真測量の標準的な作業工程について理解している。	・写真上の地物と実際の地物の関係を計算により求めることができる。	・近年定着しつつある技術について関心を持つとともに、測量成果の活用について考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・発表状況	・実習における自己評価及び相互評価 ・レポート
内容のまとめりと、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	1
学 年	1 年	教科書	なし		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① イネの栽培を通して、食料・農業・環境に関する諸問題を解決する態度を身に付けます。 ② 挿し木技術の習得や樹木標本の製作を通して、プロジェクト学習法について学習します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 水稲栽培プロジェクト①	・水稲栽培を通して知識・技術の習得を図りながら、プロジェクト学習の基礎を養います。
	2 樹木の挿し木実習①	・樹木の挿し木実習を通して、挿し木の基本的な技術を習得します。
	3 樹木標本作成実習	・樹木標本の作成実習を通して、作庭に関わる樹種の名称と特徴を学習します。
2	4 水稲栽培プロジェクト②	・水稲栽培を通して知識・技術の習得を図りながら、プロジェクト学習の基礎を養います。
	5 樹木の挿し木実習②	・挿し木の発根調査を通して、用土や樹種の違いから発根状況にどのような違いがあるのかを考察し、プロジェクト学習に取り組みます。
3	6 水稲栽培プロジェクト③	・水稲栽培プロジェクトの結果を文章や図、表を用いてレポートにまとめます。
課題	①夏休み課題…樹木標本の作製に取り組みます。 ②冬休み課題…水稲栽培に関するレポート作成に取り組みます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 水稲の栽培プロジェクト①②③	・水稲の栽培プロジェクトを通して、水稲栽培の基本的な技術を習得している。	・水稲栽培プロジェクトの結果を文章や図、表を用いてレポートにまとめ表現できている。	・水稲の栽培プロジェクトに関心を持ち、主体的に実習に取り組んでいる。
評価方法	・単元別考査	・レポート	・実習手帳の記録
2 樹木の挿し木実習①②	・樹木の挿し木実習を通して、挿し木の基本的な技術を習得している。	・挿し木の発根調査を通して、用土や樹種の違いと発根状況の関係を考察できている。	・挿し木の基本的な技術を習得しようと主体的に取り組んでいる。
評価方法	・単元別考査	・レポート	・実習手帳の記録
3 樹木標本作成実習	・樹木標本の作成実習を通して、樹木標本作成の基本的な技術を習得している。	・作庭に関わる樹種の名称と特徴を理解し、判別ができている。	・樹種の名称や特徴を理解しようと主体的に取り組んでいる。
評価方法	・樹木標本	・樹木標本	・実習手帳の記録
内容のまとめりとともに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	造園計画	単位数	2
学 年	2 年	教科書	造園計画（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園の計画・設計に必要な知識と技術について学ぶ。また、レタリングやトレース試験に挑戦して資格を習得する。 ② 造園様式の移り変わりや特徴について学ぶ。 ③ 緑地環境が持つ役割や機能について学び、造園設計が持つ意義や役割について理解を深める。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 文字の練習（レタリング技能検定） 2 地球環境と造園計画	- 造園製図に使用する文字の書き方やバランスを考えて表現します。 - 地球環境問題や自然の保全の知識を通して、造園の意義や役割について学びます。 - 造園計画の目標やその方法について学びます。
2	3 造園製図の基礎（トレース技能検定） 4 環境と造園の様式 5 造園製図・デザインの基礎	- 製図の知識を生かし、トレース技能検定3級の取得に挑戦します。 - 造園の歴史や文化を学ぶことを通して、造園の様式の知識を学びます。 - 箱庭作成を活用して、造園の要素について理解します。
3	5 造園製図・デザインの基礎	箱庭の平面図を完成させ、平行透視図で敷地や立体物を描きます。
課題	① 文字を正確に作成するレタリング技能検定の課題を実施します。 ② 図面を正しく聖書するトレース技能検定の課題を実施します。 ③ 箱庭の平面図を完成させます。 ④ 作成した箱庭のレポートを作成します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 文字の練習(レタリング技能検定)	- 字体の種類や書き方を習得している。 - 製図道具を正しく使用できている。	デザインされた文字の作図の方法を習得している。	集中して課題に取り組んでいる。
評価方法	- 定期考査 - 練習図面の提出	- 定期考査 - 練習プリントの提出	- 授業中の取組状況 - 課題の提出状況
2 地球環境と造園計画	- 造園の役割や意義について理解している。 - 造園計画の進め方や方法について理解している。	現代社会で求められる造園の役割や意義について考えることができています。	積極的に発表したり、グループでの話し合いに参加できている。
評価方法	- 定期考査 - ワークシートの記述	- 定期考査 - ワークシートの提出	- 授業中の取組状況 - 課題の提出状況
3 造園製図の基礎(トレース技能検定)	造園製図の基礎を習得できている。	製図方法に基づき工業用図面を票田できている。	与えられた課題を作成できている。
評価方法	- 定期考査 - 作業中の取組状況	- 定期考査 - 作業中の取組状況	- 授業中の取組状況 - 課題の提出状況

4 環境と造園の様式	・時代と造園様式の関係及びその特徴について理解している。	・庭園が持つ独自性と共通する普遍性について考えることができる。	・積極的に発表したり、グループでの話し合いに参加できている。
評価方法	・定期考査 ・ワークシートの提出	・定期考査 ・ワークシートの提出	・授業中の取組状況
5 造園製図・デザインの基礎	・箱庭の平面図を描き上げている。 ・平衡透視図法を用いた敷地や立体物の書き方について理解している。	・構想を箱庭上に表現することができる。	・箱庭と平面図を完成させることができる。
評価方法	・定期考査 ・授業中の取組状況	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況 ・課題の提出状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	造園施工管理	単位数	2
学 年	2 年	教科書	造園施工管理（東京電機大学出版局）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園施工管理が果たす意義と役割など、現状と課題を関連づけて施工計画、工事の管理、法規などの工事の施工や実践について学習する。 ② 造園施工管理の基本的な知識を理解し、技術を習得する。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 造園施工関係の法規 2 造園工事の施工	・造園施工関係の法規について学習します。 ・造園材料の特徴について学習します。 ・造園工事の施工技術を習得します。
2	3 工事の管理 4 施工計画の基本	・工事の運営組織、工程管理について学習します。 ・造園工事に関するプロジェクトに取り組みます。 ・施工計画の立案のあり方、進め方について学習します。
3	5 造園施工の実践	・造園の意義と役割について理解し、造園施工に関する技術を習得します。 ・情報化施工について理解し、造園における環境に配慮した維持管理について理解する。
課題	① 2 級造園施工管理技術検定課題に取り組みます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 造園施工関係の法規	・造園施工関係の法規とは関わりを理解している。	・法規の特徴を説明できる。	・農林業を行う上で、法律の役割や意義に関心を持っている。
評価方法	・定期考査 ・ワークシートの記述	・定期考査	・授業への取り組み状況
2 造園工事の施工	・造園材料の名称や用途について理解している。	・造園工事の適切な進め方について考えながら施工できている。	・造園工事の施工に興味を持ち、考えをまとめることができている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・実習への取組	・レポート作成
3 工事の管理	・事業について調査し、施工方法について理解している。	・事業や成果を学習し説明できる。 ・地域の工事現場の必要性を理解している。	・工事の実践例や地域における施工の実態を調査してレポートが作成できている。
評価方法	・定期考査 ・調査レポート	・定期考査 ・レポート	・調査レポート
4 施工計画の基本	・施工計画の立案についてあり方、進め方を理解、説明できる。 ・仮設計画の種類や進め方を理解している。	・施工計画の重要性を理解し、現状と課題を理解し説明できる。	・仮設計画のイメージアップについて興味を持っている。
評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業への取り組み状況

5 造園施工の実践	・造園施工の基本的な知識と技術について説明できる。 ・環境と調和のとれた整備について理解している。	・施工の実践や国土交通省の Web データを活用して考察できる。	・Web のデータを閲覧し地域の工事や施工に関心を持っている。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・レポート	・授業への取り組み状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	造園植栽	単位数	2
学 年	2 年	教科書	造園植栽（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園植栽が、植物を主な構成要素として、さまざまな生活環境を快適で美しく構成する技術であることについて学ぶ。 ② 造園植栽が、私たち人間と一体的に存在し、不足すれば物理的にも心理的にも潤いが無くなることについて学ぶ。 ③ 実物の植物材料を観察し、特徴を捉えることで適切な植栽技術を育成する。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 造園植物の基本	・造園植物の基本について学習します。
	2 造園植物と植生	・造園植物と植生について学習します。
	3 造園植物の分類	・造園植物の分類について学習します。
2	4 木本類・草本類	・木本類の種類と特徴について学習します。
	5 地被植物とシバ植物	・草本類の種類と特徴について学習します。 ・地被植物・シバ植物の種類と特徴について学習します。
3	6 造園植物の繁殖と育成	・造園植物の繁殖と育成について学習します。
	7 造園植栽の実践活動	・造園植栽の実践活動について学習します。
課題	①課題…課題プリントに取り組みます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 造園植物の基本	- 造園植物の基本について理解している。 - 造園樹木名を正しく理解している。	- 造園植物の基本について正しく判別できる。 - 造園樹木を正しくスケッチできる。	- 造園植物の基本について正しく判別しようとする。 - 造園樹木を丁寧にスケッチできる。
評価方法	- 定期考査 - 課題の提出状況	- 定期考査 - 課題の提出状況	- 授業への取り組み状況 - 課題の提出状況
2 造園植物と植生	- 造園植物と植生について理解している。 - 造園樹木名を正しく理解している。	- 造園植物と植生について正しく判別できる。 - 造園樹木名を正しくスケッチできる。	- 造園植物と植生について正しく判別しようとする。 - 造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	- 定期考査 - 課題の提出状況	- 定期考査 - 課題の提出状況	- 授業への取り組み状況 - 課題の提出状況
3 造園植物の分類	- 造園植物の分類について理解している。 - 造園樹木名を正しく理解している。	- 造園植物の分類について正しく判別できる。 - 造園樹木名を正しくスケッチできる。	- 造園植物の分類について正しく判別しようとする。 - 造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	- 定期考査 - 課題の提出状況	- 定期考査 - 課題の提出状況	- 授業への取り組み状況 - 課題の提出状況

4 木本類・草本類	・木本類・草本類の分類について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・木本類・草本類の分類について正しく判別できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・木本類・草本類の分類について正しく判別しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
5 地被植物とシバ植物	・地被植物とシバ植物の分類について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・地被植物とシバ植物の分類について正しく判別できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・地被植物とシバ植物の分類について正しく判別しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
6 造園植物の繁殖と育成	・造園植物の繁殖と育成について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・造園植物の繁殖と育成について正しく判別できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・造園植物の繁殖と育成について正しく判別しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
7 造園植栽の実践活動	・造園植栽の実践活動について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・造園植栽の実践活動について正しく判別できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・造園植物の繁殖と育成について正しく判別しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
内容のまとめりに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	測 量	単位数	2
学 年	2 年	教科書	測量（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 測量に必要な知識と技術を習得し、測定値の処理や測定機器の性質を学習する。また国土・環境保全など、環境の各分野に共通する基礎・基本を身に付ける。 ② 測量士補・測量士試験に対応した授業を行い、国家試験合格を目指す。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 測量を学ぶにあたって・測量に関する法規	- 測量士の測量法における位置付けについて理解し、合格を目指します。 - 測量法などの関係法令について学習し、測量の種類、位置の基準、測量計画機関、測量作業機関の役割等について理解します。
	2 水準測量	測量士試験の問題演習を通して、GNSS水準測量と直接水準測量について学習し、誤差の伝播や誤差要因とその消去法を理解します。
2	3 基準点測量	測量士試験の問題演習を通して、GNSS測量、TS測量について学習して、各種測量方法の特性について理解するとともに、準拠楕円体上の距離の計算、相互偏心計算、誤差の伝播について求めることができる。
	4 地形測量	測量士試験の問題演習を通して、TLS、MMS、UAV、航空レーザ測量等による地形測量について学習し、各測量方法の特性を理解します。
	5 写真測量	測量士試験の問題演習を通して写真測量について学習し、撮影諸元等から撮影範囲、撮影基線長、OL、SL等を求めることができるようになります。
3	6 地図編集	測量士試験の問題演習を通して地図編集の基本を学習し、基本的な読図ができる。
	7 応用測量	測量士試験の問題演習を通して、路線測量、河川測量、用地測量の基本原則を理解し、基礎的計算ができる。
課題	① 測量士試験の問題を中心とする復習課題を単元毎に課します。 ※その他、公共測量等の実際の現場で活用されることが少なくなった測量技術（平板測量）等については扱わない。	

評価の観点 評価基準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 測量を学ぶにあたって・測量に関する法規	測量法などの関係法令について学習し、基本事項を理解している。	測量の種類、位置の基準、測量計画機関、測量作業機関の役割等について説明できる。	測量士の役割を理解し、合格を目指す。
評価方法	- 定期考査 - 単元毎の小テスト	- 定期考査 - 授業中の取組状況	授業中の取組状況
2 水準測量	測量士試験の問題演習を通して、GNSS水準測量と直接水準測量の基本事項を理解している。	誤差の伝播や誤差要因について理解し、その影響を求めることができる。	測量が果たす社会的意義や役割を実感して、粘り強く考え、生活や学習に生かそうとしている。
評価方法	- 定期考査 - 単元毎の小テスト	- 定期考査 - 授業中の取組状況	授業中の取組状況
3 基準点測量	測量士試験の問題演習を通して、GNSS測量、TS測量について学習し、各種測量方法の特性について理解している。	準拠楕円体上の距離の計算、相互偏心計算、誤差の伝播について計算により求めることができる。	測量が果たす社会的意義や役割を実感して、粘り強く考え、生活や学習に生かそうとしている。

評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況
4 地形測量	・測量士試験の問題演習を通して、TLS、MMS、UAV、航空レーザ測量等による地形測量について学習し、各測量方法の特性を理解している。	・計測対象の性質や要求される精度等に基づき適切な測量方法について考察できる。	・近年定着しつつある技術について関心を持つとともに、測量成果の活用について考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況
5 写真測量	・測量士試験の問題演習を通して、写真測量について学習し、その特性を理解している。	・撮影諸元等から撮影範囲、撮影基線長、OL, SL等を求めることができる。	・近年定着しつつある技術について関心を持つとともに、測量成果の活用について考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況
6 地図編集	・測量士試験の問題演習を通して、地図編集の基本を理解している。	・地理空間情報の活用方法について考察できる。	・測量が果たす社会的意義や役割を実感して、粘り強く考え、生活や学習に生かそうとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況
7 応用測量	・測量士試験の問題演習を通して、路線測量、河川測量、用地測量の基本原則を理解している。	・クロソイド曲線、ねじれ図形などの面積計算などの基礎的計算ができる。	・近年定着しつつある技術について関心を持つとともに、測量成果の活用について考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況
内容のまとめりと、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業土木施工	単位数	2
学 年	2 年	教科書	農業土木施工（東京電機大学出版局）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 農業生産基盤整備、保全が果たす社会的な意義と役割など、現状と課題を関連づけて施工計画、工事の管理、法規などの工事の施工や実践について学習する。 ② 農業生産基盤と農村生活環境を整備し、国民の食料供給だけでなく国土の資源管理を図るための基本的な知識や技術を理解し身に付ける。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業土木関係の法規 2 農業土木工事の施工	・農業土木関係の法規について学習します。 ・農村計画関連法規について学習します。 ・農業土木材料、土工、コンクリート工の特徴について学習します。 ・土木工事の施工について「土木設計」と連動して学習します。 ・農業土木工事の施工に関心を持ち、特徴や機能について学習します。
2	3 工事の管理 4 施工計画の基本	・資料や見学を通じて国土交通省四国整備局の事業について学習します。 ・工事の運営組織、工程管理について学習します。 ・施工計画の立案のあり方、進め方について学習します。 ・仮設計画の種類や進め方について学習します。 ・仮設備のイメージアップについて学習します。
3	5 農業土木施工の実践	・農業土木施工に関するプロジェクト学習について学習します。 ・農業土木事業の意義と役割について説明し、実践法について学習します。 ・環境との調和に配慮したほ場整備について学習します。 ・情報化施工について理解し、白水農場における環境に配慮した維持管理について学習します。
課題	① 2級土木施工管理技術検定の過去問に対応した課題を課します。 ② 白水水田（環境開発科実習地）の農地整備、施工についてレポートを提出する。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 農業土木関係の法規	・農業土木関係の法規について、農地法や土地改良法など農村計画との関わりを理解している。	・農地法や土地改良法の特徴を説明できる。 ・農地や土地について理解し、制定の歴史や現状について説明できる。	・農林業を行う上で、法律の役割や意義に関心を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況	・授業への取り組み状況 ・レポート作成状況

2 農業土木工事の施工	・農業土木材料の名称や用途について理解している。 ・土工、コンクリート工、基礎工について理解、説明できる。	・農業土木材料について理解し特徴を説明できる。 ・土工、コンクリート工、基礎工の現状と課題について自分の考えを発表できる。	・農業土木工事の施工に興味を持ち、生産物や環境に合わせた工事の施工に興味を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業での発表	・教科書を読んだレポート作成状況
3 工事の管理	・国土交通省の事業について調査し、施工方法について理解している。	・国土交通省の事業や成果を学習し説明できる。 ・地域の工事現場を見学し必要性を理解できる。	・工事の実践例や地域における施工の実態を理解し、運営組織や工程管理に興味を持つ。
評価方法	・定期考査 ・調査レポート	・定期考査 ・レポート	・現場見学についての調査レポート
4 施工計画の基本	・施工計画の立案についてあり方、進め方を理解、説明できる。 ・仮設計画の種類や進め方を理解している。	・施工計画の重要性を理解し、現状と課題を理解し説明できる。	・施工計画の立案について興味を持つ。 ・仮設計画のイメージアップについて興味をもつ。
評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業への取り組み状況
5 農業土木施工の実践	・農業土木施工の基本的な知識と技術について説明できる。 ・環境と調和のとれたほ場整備について理解している。	・施工の実践や国土交通省の Web データを活用して考察できる。	・Web のデータを閲覧し地域の工事や施工に関心を持つ。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・レポート	・授業への取り組み状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業土木設計	単位数	2
学 年	2 年	教科書	農業土木設計（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 農業土木事業の計画と設計に必要な知識と技術を学習し、農業土木事業計画の重要性和土木構造物の特質を学習する。 ② 自然環境との調和に配慮した事業を計画し、構造物を設計する知識や技術を身に付ける。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業土木計画・設計の意義 2 設計と力学	・農業土木設計の意義と役割について、学習内容と実生活の関わりについて関心を持つ。 ・力と合成・分解について理解する。 ・釣り合いの3条件を利用した基礎的な計算ができる。 ・断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径等の断面形状の力学的な特性に関する基礎的な計算ができる。 ・応力とひずみの関係を理解し、説明できる。 ・材料の強さと許容応力度の関係を理解し、安全率を考慮した設計ができる。 ・フックの法則を利用した計算ができる。
2	3 構造及び部材の計算と設計 ①	・単純はりに掛かる内力と外力の関係を理解できる。 ・単純はりに掛かる集中荷重、等分布荷重、等変分布荷重とそれらの組み合わせ荷重に関する基礎的な計算ができる。 ・静定と不静定、安定と不安定の関係を理解し、判別することができる。 ・片持ち梁、固定梁、ゲルバー梁に掛かる荷重について、基礎的な計算ができる。
3	4 構造及び部材の計算と設計 ②	・トラスの基本構造とその利用方法を理解できる。 ・ワーレントラス、プラットトラス、ハウトラスについて、外力に対する各部材の応力を計算することができる。
課題	① 国家公務員試験の過去問に対応した課題を課します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 農業土木計画・設計の意義	・農業土木設計の意義や役割を理解している。	・農業土木設計の学習内容が日常生活のどのような場面で生かされているのか考えることができる。	・学習内容と実生活の関わりについて関心を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・授業中の取組状況
2 設計と力学①	・力の合成と分解、釣り合いの3条件について理解している。 ・断面形状による力学的特性の違いを理解している。 ・材料の強さと許容応力度について理解している。	・釣り合いの三条件を利用した基礎的な計算ができる。 ・断面形状の違いによる力学的な特性を計算により求め、説明できる。	・日常生活の中で感覚的な理解をしている事象について、各種の値を計算することで理解しようと粘り強く努力している。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・レポート

3 構造及び部材の 計算と設計①	・梁の種類と特性を理解している。 ・荷重の種類と計算方法を理解している。	・単純梁に掛かる各種の荷重について、せん断力、曲げモーメントに関する基礎的な計算ができる。 ・静定と不静定、安定と不安定などの梁の状態を理解し、判別できる。	・学習内容を発展させた先に、日常生活で目にするインフラストラクチャーなどの構造物が出来上がっていくことに関心を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・レポート
4 構造及び部材の 計算と設計②	・トラスの基本構造とその利用方法を理解している。	・各種トラスに掛かる応力について、部材に応じた計算法を選択し、適切に計算できる。	・学習内容を発展させた先に、日常生活で目にするインフラストラクチャーなどの構造物が出来上がっていくことに関心を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取組状況	・レポート
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業情報活用	単位数	2
学 年	2 年	教科書	農業情報活用（伊予農業高校）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアを用いて、データの処理能力及びデータ活用能力を身に付ける。 ② 検索エンジン等を活用して、自身に必要な情報を取捨選択する能力を育成する。
------	---

学期	技術	学習内容・学習のねらい
1	1 私たちの生活と情報	- 生活の周りにある、情報機器や IoT について学習し、その使用例や役割について理解します。 - 農業分野で扱われている情報機器やスマート農業の現状について学び、その使用例や農業分野に与えた影響について理解します。
2	2 農業における情報の活用	- 日本の農業の課題を考えることで、スマート農業が導入される意義を理解します。 - スマート農業の導入事例とその効果について、現在の農業の課題を交えた考察をします。 - 農業土木分野及び造園分野における ICT 技術の活用方法について学習します。
3	3 情報発信の手法	- 研究発表のプレゼンテーションの構成に関して学び、実際に作成します。 - インターネットを利用した情報発信方法と SNS の活用方法について学習します。
課題	① 予習・復習…授業ごとの課題をします。 ② 夏休み課題…文書入力速度認定試験と文書デザイン検定試験の課題をします。 ③ 冬休み課題…プレゼンテーションソフトウェアの種類について調べます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 私たちの生活と情報	- 身の回りにある情報通信機器や IOT について理解している。 - スマート農業の概要や利点、利用例を理解している。	- 情報通信機器を適切に使用できる。 - 現在の農業の課題である高齢化と担い手不足を解決する方法を考察することができる。	- 情報通信機器や情報通信技術について理解しようとしている。 - スマート農業について調べ、課題解決に向け活用しようとしている。
評価方法	- 小テスト - 定期考査 - ワークシートの記入内容	- 小テスト - 考査期末 - レポート - ノート記入 - 発問への応答等	- 授業への取り組み状況 - レポート - 発問への応答等
2 農業における情報の活用	- 日本の農業の課題について理解している。 - スマート農業の導入例とその利点を理解している。 - 土木・造園分野で活用さ	- 農業の高齢化や担い手不足に対して、解決策を考察している。 - 実習で行った作業から課題を見出し、それに対して ICT 技術を用い	農業分野で利用されている ICT 技術について自ら進んで調査し、課題の解決に活用しようとしている。

	れている ICT 技術について理解している。	た解決策を提示している。	
評価方法	・テスト ・定期考査 ・ワークシートへの記入内容	・小テスト ・考査期末 ・レポート ・ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取り組み状況 ・レポート ・発問への応答等
3 情報発信の手法	・文書処理ソフトウェア及びプレゼンテーションソフトウェアの使用方法を理解している。 ・ZOOM の使用方法及び SNS を利用する際に注意すべき事を理解している。	・各種ソフトウェアを用いてプレゼンテーションを作成できる。 ・SNS の過去の事例から危険性のある文章や言葉を理解し、判断できる。	・プレゼンテーションを作成する際に必要な技術や工夫を調べ、積極的に良いものを作ろうとしている。 ・SNS について、自身の日常や経験から危険性を考え、解決しようとしている。
評価方法	・テスト ・定期考査 ・ワークシートへの記入内容	・小テスト ・考査期末 ・レポート ・ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取り組み状況 ・レポート ・発問への応答等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（緑地類型）	単位数	3
学 年	2 年	教科書	なし		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 緑地環境の維持管理活動の実践を通して、緑地環境が持つ意義や役割、管理方法について専門的な学習をしながら、1年次より進んだ知識や技術を習得する。 ② 造園技能士の資格取得に向けた学習及び実技練習を通して、造園施工に関する実践的な知識・技術を習得する。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 緑地環境の管理作業 2 造園技能士	・春～夏にかけての緑地環境の管理作業に関連する知識・技術について学習します。 ・造園技能士の資格取得に向けた知識・技術について学習します。
2	3 緑地環境の管理作業 4 造園技能士	・夏～冬にかけての緑地環境の管理作業に関連する知識・技術について学習します。 ・造園技能士の資格取得に向けた知識・技術について学習します。
3	5 緑地環境の管理作業	・夏～冬にかけての緑地環境の管理作業に関連する知識・技術について学習します。
課題	① 予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…指定された日に2回程度、各4時間実習します。 ③ 冬休み課題…指定された日に1回、4時間実習します。 ④ そ の 他…各種発表校内大会出場に向けたプロジェクト活動を実施します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	・緑地環境の管理作業に関連する基礎的な知識・技術について、理解及び習得している。	・緑地環境の管理について、安全性・効率性を考えながら作業を進めることができる。 ・質問に対して自らの考えを発言できる。 ・栽培管理に関する基礎的な知識・技術を活かし、実習に創意工夫が見られる。	・集合が時間までに行える。 ・実習ができる服装が整っている。 ・実習に必要な道具を準備できる。 ・道具を大切に取り扱い、後片付けができる。 ・実習に積極的に取り組める。 ・友人と協力して作業ができる。
評価方法	・定期考査 ・実習の取組状況	・定期考査 ・実習の取組状況 ・実習手帳の記録	・実習の取組状況 ・実習手帳の記録
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・プロジェクト活動の意義・目的を理解している。	・意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができる。 ・プロジェクト学習の内容を的確にまとめることができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。 ・

評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。	・意見発表への取組	・提出物の期日を守ることができている。 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（環境類型）	単位数	3
学 年	2	教科書	なし		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 学校農場や地域の抱える問題点を題材にした実習を通して国土環境保全・生活基盤整備などの知識や技術を身に付けます。 ② 測量や農業土木に必要な知識と技術を専門科目と関連付けて体系的、探究的に学習します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 GLOBAL. G. A. P認証取得へ向けた取り組み（水稻） 2 測量士補過去問解説①（5月下旬の国家試験まで）	・GLOBAL. G. A. P 認証取得に向け水稻の栽培のプロジェクトに 取り組み、その意義や方法、重要性について学習します。 ・測量士補試験の合格に向け出題傾向や解答方法を学習しま す。
2	3 水準測量① 4 測量士補過去問解説②	・電子レベルや DGPS の使い方を学習します。 ・外部講師に過去の出題問題に応じた類題を作成して、その 解答、解説を行うことで、測量士補試験への理解度を深め ます。
3	5 水準測量② 6 レポート作成	・水準測量を用いた、スクミリングガイによる食害の 対策を学習し、農業と測量の繋がりについて理解します。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ②夏休み課題…指定日に4時間の実習を行います。 ③冬休み課題…指定日に8時間の実習を行います。 ④そ の 他…年2回、農業鑑定競技校内大会があり、鑑定ノートを作成し提出します。 ※この科目は放課後や長期休業中などに35時間分（1時間は50分）行われます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 GLOBAL. G. A. P認証取得へ向けた取り組み（水稻）	・水稻の栽培方法について理解し関連する技術を身に付けている。 ・GAPについてその内容や意義を理化している。	・水稻の栽培について身に付けた知識をもとに科学的に考え行動することができる。 ・実習を通しての気づきを記録に、まとめることができる。	・水稻の栽培や学習する中で発生した疑問を積極的に解決しようとしている。
評価方法	・小テスト ・実習手帳への記入内容	・実習手帳への記入内容 ・作業の様子 ・レポート	・実習手帳への記入内容 ・レポート
測量士補過去問解説①②	・測量士補の過去問や類題の内容を理解している。 ・測量士補合格基準の水準測量について関連する技術を身に付けている。	・測量士補を学習する中で身に付けた知識をもとに課題を発見し、科学的根拠に基づいて解決できる。	・測量士補試験を学習する中で感じた疑問を積極的に解決しようとしている。
評価方法	・小テスト ・ワークシートへの記入	・ワークシートへの記入内容	・ワークシートへの記入内容

	内容		
水準測量①②	・水準測量の手順と誤差の消去・軽減法を理解している。 ・測量機器(電子レベル、DGPS)を適切な手順で正確に操作できる。	・測量記録及び測量成果を適切にまとめることができる。	・測量の過程を振り返って誤差の要因について考え、改善しようとしている。
評価方法	・単元毎の小テスト ・測量記録及び測量成果(レポート)	・測量記録及び測量成果(レポート) ・実習中の取組状況	・実習における自己評価及び相互評価 ・レポート
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	造園計画	単位数	2
学 年	3 年	教科書	造園計画（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園の計画・設計に必要な知識と技術について学習する。 ② モデル庭園の設計・施工までを理解し、庭園作成を行う。 ③ 緑地環境が持つ役割や機能について学び、造園設計が持つ意義や役割について理解を深める。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 モデル庭園の設計	・モデル庭園の作成の意義について学習します。 ・モデル庭園の平面図の描き方を学習します。 ・モデル庭園の透視図の描き方を学習します。 ・モデル庭園のトレースについて学習します。
	2 庭園の施工 3 住宅庭園	・モデル庭園を施工し班で協力する大切さを学習します。 ・石組みや植栽・垣根の作り方について学習します。 ・班員で協力してモデル庭園を完成させます。 ・住宅庭園の機能と環境条件について学習します。
3	5 屋上・室内・壁面緑化	・屋上緑化・室内庭園・壁面緑化について学び、環境に配慮した造園計画について理解を深めます。
課題	① モデル庭園の設計図を完成させます。 ② 農業祭までに庭園を完成させます。 ③ 設計図やレポートなどの作品や課題を提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 モデル庭園の設計	・平面図・透視図を正しく描くことができる。 ・製図道具を正しく使用できている。	・定められた区画に設計図を描くことができる。 ・縮尺を理解した平面図や透視図を完成することができる。	・集中して課題に取り組んでいる。 ・丁寧に正確な図面を仕上げるができる。
評価方法	・定期考査 ・図面の提出	・定期考査 ・図面の提出	・授業中の取組状況 ・課題の提出状況
2 庭園の施工	・石組みの方法・植栽の方法を正しく理解している。 ・道具を正しく使用し設計通りの庭を完成することができている。	・庭園の完成に必要な道具や工具を理解し正しく使用できる。 ・設計図通りの庭を完成させるために班員と協力して庭を造っている。	・班員で話し合い、協力して庭の作成に取り組んでいる。 ・庭の工事における進捗状況を正しく把握し記録することができる。
評価方法	・定期考査 ・実習手帳の記入	・定期考査 ・実習手帳の記入	・授業中の取組状況 ・手帳の提出状況
3 住宅庭園	・住宅庭園の基礎を習得できている。	・住宅庭園について理解し機能と環境条件について理解している。	・住宅庭園について理解し新しい発想やアイデアについて考える。
評価方法	・定期考査 ・作業中の取組状況	・定期考査 ・作業中の取組状況	・授業中の取組状況 ・レポートの提出状況
4 屋上・室内・壁面の緑化	・屋上・室内・壁面の緑化について理解している。	・屋上・室内・壁面の緑化の種類や特徴について理解している。	・積極的に発表したり、グループでの話し合いに参加できている。

評価方法	・ 定期考査	・ 定期考査	・ 授業中の取組状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	造園施工管理	単位数	4
学 年	3 年	教科書	造園施工管理（東京電機大学出版局）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園施工管理が果たす意義と役割など、現状と課題を関連づけて施工計画、工事の管理、法規などの工事の施工や実践について学習する。 ② 造園施工管理の基本的な知識を理解し、技術を習得する。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 施設施工管理 2 水景施設工	・園路や広場工事について学習します。 ・自転車道・歩道・車道について学習します。 ・池泉工・西洋式の水景施設について学習します。
2	3 庭園の施工 4 庭園施設工	・庭園の施工について学習します。 ・石組工・植栽工・垣根工・地被工について学習します。 ・庭園施設について学習します。
3	5 公園施設工	・運動施設工・公園施設工について学習します。
課題	① 2級造園施工管理技術検定課題に取り組みます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 施設施工管理	・園路や広場工事について理解している。	・園路・広場の種類や特徴を説明できる。	・園路・広場の種類や特徴役割や意義に関心を持つ。
評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業への取り組み状況
2 水景施設工	・水景施設・池泉工事について理解している。	・池泉工事の適切な進め方について考えながら施工できている。	・池泉工事の施工に興味を持ち、考えをまとめることができている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査	・レポート作成
3 庭園の施工	・モデル庭園の施工方法について理解している。	・石組みや植栽方法を学習し説明できる。 ・安全に留意して庭園を作成できる。	・工事の進捗状況を把握し、実習の成果を記録することができる。
評価方法	・定期考査 ・手帳記入	・定期考査 ・手帳記入	・手帳記入
4 庭園施設工	・石灯籠の種類や設置方法について理解している。 ・藤棚・門の種類や設置方法を理解している。	・石灯籠の・藤棚・門の種類や設置方法を理解し説明できる。	・庭園施設工のうち、石灯籠などの施設について興味をもつ。
評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業への取り組み状況
5 公園施設工	・運動施設・遊戯施設について理解している。	・運動施設の種類や役割を理解している。	・運動施設・遊戯施設について興味を持つ。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・レポート	・授業への取り組み状況

内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。

教 科	農 業	科 目	造園植栽	単位数	4
学 年	3 年	教科書	造園植栽（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園植栽が、植物を主な構成要素として、さまざまな生活環境を快適で美しく構成する技術であることを学ぶ。 ② 造園植栽が、私たち人間と一体的に存在し、不足すれば物理的にも心理的にも潤いが無くなることを学ぶ。 ③ 実物の植物材料を観察し、特徴を捉えることで適切な植栽技術を身に付ける。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 造園植栽管理	・植栽管理の基本について学習します。
	2 樹木の管理	・樹木の管理について学習します。
	3 樹林の管理	・樹林の管理について学習します。
2	4 庭園の施工	・モデル庭園の施工について学習します。
	5 芝生の管理	・芝生の管理について学習します。
3	6 造園植物	・造園植物について学習します。
課題	① 校内にある樹木の判別に関する課題を課します。 ② 校内樹木をスケッチして特徴を覚えます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 造園植栽管理	・造園植栽管理について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・造園植栽管理について正しく判断できる。 ・造園樹木を正しくスケッチできる。	・造園植栽管理について正しく判別しようとする。 ・造園樹木を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
2 樹木の管理	・樹木の管理について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・樹木の管理について正しく判断できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・樹木の管理について正しく判別しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
3 樹林の管理	・樹林の管理について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・樹林の管理について正しく判別できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・樹林の管理について正しく判別しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
4 庭園の施工	・設計図の内容について理解している。 ・石組・植栽方法を正しく理解している。	・設計図の内容を理解し庭園の施工方法について理解する。 ・石組・植栽方法を正しく理解している。	・庭園の施工について理解卵とする。 ・班員と協力して庭園を作成することができる。

評価方法	・定期考査 ・実習手帳の提出状況	・定期考査 ・実習手帳の提出状況	・授業への取り組み状況 ・実習手帳の提出状況
5 芝生の管理	・芝生の管理について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・芝生の管理について正しく判断できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・芝生の管理について正しく判断しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
6 造園植物	・造園植物について理解している。 ・造園樹木名を正しく理解している。	・造園植物について正しく判断できる。 ・造園樹木名を正しくスケッチできる。	・造園植物について正しく判断しようとする。 ・造園樹木名を丁寧にスケッチできる。
評価方法	・定期考査 ・課題の提出状況	・定期考査 ・課題の提出状況	・授業への取り組み状況 ・課題の提出状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	造園フリーハンド演習	単位数	4
学 年	3 年	教科書	造園フリーハンド演習（伊予農業高校）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 造園に関する基礎的な学習を通して、将来造園業に従事する人材を育成するとともに環境に配慮した緑地空間の創造、維持管理を意識できる態度を育成する。 ② 造園分野におけるプレゼンテーション能力の一つとして平面図や透視図、模型などを利用して庭園や公園の完成を想像させる能力を養う。 ③ 設計図面に使用する文字の練習、住宅庭園の平面図や透視図の設計、造園素材に関する知識・技術を学ぶ。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 文字の練習 2 デッサンの基本 3 遠近法を学ぼう	・造園製図に使用する文字の書き方やバランスについて学習します。 ・立方体の形、色彩、陰影の表現方法について学習します。 ・遠近法の種類や表現方法、透視図法の種類や描き方について学習します。
2	4 自然を描こう 5 住宅庭園の作図	・基礎線や樹木記号の表現方法を学習します。 ・造園素材である樹木を観察し、樹幹、枝葉などの表現方法を練習します。 ・造園素材である石材を観察し、質感、大きさ、形、模様などの表現方法を練習します。 ・33㎡のモデル庭園の設計を行い、図面を描きます。
3	5 住宅庭園の作図	・大規模住宅庭園の設計を行い、平面図、透視図、トレース、着色を完成させます。
課題	① 文字を正確に作成するレタリング検定の課題に取り組みます。 ② モデル庭園の設計図を完成させます。 ③ 大規模住宅庭園（全国造園デザインコンクール）作品を完成させます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 文字の練習	・明朝体やゴシック体など造園製図に使用する文字や書体の種類を理解している。	・書体の違いにより文字の表現方法が変わること、文字の大きさや線の幅により特徴が変化することを表現できる。	・フリーハンドやレタリングに興味を持ち、楽しく文字を表現する。
評価方法	・定期考査 ・単元ごとの小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況 ・作品の完成度	・授業への取り組み状況 ・作品の提出状況
2 デッサンの基本	・デッサンの基本を理解し、形をとること、陰影をつけることの意味や方法を理解している。	・立方体を見る角度、高さ、光の当たり具合から描かれた作品の仕上がりが変化することを正しく表現できる。	・フリーハンドによるデッサンに興味を持ち、立方体や円錐などを丁寧かつ美しく表現しようとする。
評価方法	・定期考査 ・単元ごとの小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況 ・作品の完成度	・授業への取り組み状況 ・作品の提出状況
3 遠近法を学ぼう	・遠近法や透視図法の種類や作図方法を理解し、描き方により図面の表現方法が大きく違うことを理解している。	・表現しようとする平面データとの距離や目線の高さの違いにより、完成した透視図の違いを正しく表現できる。	・遠近法や透視図法に興味を持ち、平面データを立体的なデータに変える面白さに気付く。
評価方法	・定期考査 ・単元ごとの小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況 ・作品の完成度	・授業への取り組み状況 ・作品の提出状況

4 自然を描こう	・樹木の種類について正しく理解し、樹幹、枝葉、仕立て方による表現方法の違いを理解している。 ・石材の種類によって、配置・表現の質感などが変化することを理解している。	・樹木の葉の形や葉の付き方、色、季節などを理解し状況に分けて表現方法を変えることができる。 ・石材の種類や用途、設置場所により質感や表現方法が変わることを正しく表現できる。	・自然に興味を持ち、それを正確に表現しようとする意欲を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元ごとの小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況 ・作品の完成度	・授業への取り組み状況 ・作品の提出状況
5 住宅庭園の作図	・住宅庭園の設計コンセプトを理解し、実用的・鑑賞的な要素を取り入れることが必要であることを理解している。	・住宅庭園や公園の設計を通して設計コンセプトや依頼主の要望に応えることができるプレゼンテーションを手書きによって表現できる。	・住宅庭園を設計することに興味を持ち、自由な発想でデザインし、作図することができる。
評価方法	・定期考査 ・単元ごとの小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況 ・作品の完成度	・授業への取り組み状況 ・作品の提出状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業土木施工	単位数	4
学 年	3 年	教科書	農業土木施工（東京電機大学出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 農業生産基盤整備、保全が果たす社会的な意義と役割など、現状と課題を関連づけて施工計画、工事の管理、法規などの工事の施工や実践について学習する。 ② 農業生産基盤と農村生活環境を整備し、国民の食料供給だけでなく国土の資源管理を図るための実践的な知識や技術を理解し身に付ける。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業土木関係の法規 2 農業土木工事の施工	・農業土木関係の法規について学習します。 ・環境保全関連の法規について学習します。 ・農地整備の施工、水路工、道路工、植栽工、いろいろな施工技術の特徴について学習します。 ・土木工事の施工について「水循環」と連動して学習し、理解を深めます。 ・農業土木工事の施工に関心を持ち、特徴や機能について説明できるようになります。
2	3 工事の管理 4 施工計画の基本	・資料や見学を通じて農林水産省中国四国農政局の事業について理解を深めます。 ・品質管理、安全管理について学習します。 ・仕様と積算について学習します。 ・設計図書、工事請負契約の方法について学習します。 ・工事費の積算について学習します。
3	5 農業土木施工の実践	・農業土木施工に関するプロジェクトについて学習します。 ・行政・農家・農村の協働による農地整備について学習し、実践的知識・技術について理解を深めます。 ・新旧の施工技術について考察できるようになります ・農地の保全、防災、災害復旧工事について学習します。
課題	①国家公務員試験の過去問に対応した課題を課します。 ②白水水田（環境開発科実習地）の農地整備、施工についてレポートを提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 農業土木関係の法規	・農業土木関係の法規について、環境基本法や水質汚濁防止法など環境保全関連との関わりを理解している。	・環境基本法や水質汚濁防止法などの特徴を説明できる。 ・環境や衛生について理解し、制定の歴史や現状について説明できる。	・農林業を行う上で、法律の役割や意義に関心を持つ。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況	・授業への取り組み状況 ・レポート作成状況
2 農業土木工事の施工	・農地整備における施工の意義や役割について理解している。 ・水路工、道路工、植栽工、いろいろな施工技術に	・農地整備について理解し特徴を説明できる。 ・水路工、道路工、植栽工、いろいろな施工技術の現状と課題について自	・農業土木工事の施工に興味を持ち、生産物や環境に合わせた工事の施工に興味を持つ。

	ついて理解、説明できる。	分の考えを発表できる。	
評価方法	- 定期考査 - 単元毎の小テスト	- 定期考査 - 授業での発表	教科書を読んだレポート作成状況
3 工事の管理	農林水産省の事業について調査し、施工方法について理解している。	- 農林水産省の事業や成果を学習し説明できる。 - 地域の工事現場を見学し必要性を理解できる。	工事の実践例や地域における施工の実態を理解し、品質管理や安全管理に興味を持つ。
評価方法	- 定期考査 - 調査レポート	- 定期考査 - レポート	現場見学についての調査レポート
4 施工計画の基本	- 仕様と積算の立案についてあり方、進め方を説明できる。 - 設計図書や工事請負契約の種類や進め方を理解している。	仕様と積算の重要性を理解し、現状と課題を理解し説明できる。	- 仕様と積算について興味を持つ。 - 設計図書や工事請負契約について興味をもつ。
評価方法	定期考査	定期考査	授業への取り組み状況
5 農業土木施工の実践	- 農業土木施工の実践的な知識と技術について説明できる。 - 農地の保全、防災、災害復旧工事について理解している。	施工の実践や農林水産省の Web データを活用して考察できる。	Web のデータを閲覧し地域の工事や施工に関心を持つ。
評価方法	定期考査	- 定期考査 - レポート	授業への取り組み状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農業土木設計	科 目	農業	単位数	4
学 年	3 年	教科書	農業土木設計（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 農業土木事業の計画と設計に必要な知識と技術を学習し、農業土木事業計画の重要性和土木構造物の特質を学習する。 ② 自然環境との調和に配慮した事業を計画し、構造物を設計する知識や技術を身に付ける。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 水の基本的性質	- 水路、堰、ダムなどの水利施設に必要な水の物理的性質、静水、水の流れ、管水路、開水路に関心を持つ。 - 水の物理的性質や水圧を理解できる。 - 水の流れを理解し、流速等を理解・計算できる。 - 水のエネルギーを理解し、水の性質を判別できる。 - 開水路の水の性質について理解し、説明できる。 - オリフィス、堰の流れの状態や流量について計算できる。
2	2 土の基本的性質	- 土の力学的性質に関心を持つ。 - 土の構造について説明できる。 - 土の状態について計算式から説明できる。 - 土の締固め特性を理解し、目的に応じた効率の良い締固めが選択できるようになる。 - クーロンやランキンの式より土の強さを説明できる。
3	3 農業土木構造物	- 鉄筋コンクリート構造物や鋼構造物に関心を持つ。 - 鉄筋コンクリート構造物を説明できる。 - 鉄筋の配置について理解できる。 - 鋼構造の特性を理解し説明できる。
課題	① 国家公務員試験に準じた課題を提出する。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 水の基本的性質	- 水圧や流速について公式を説明できる。 - 水におけるエネルギー保存の法則を理解している。	- 水の公式を扱い分類できる。 - ベルヌーイの定理を使い水の説明ができる。	水の特性について関心を持つ。
評価方法	- 定期テスト - 単元ごとの小テスト	- 定期テスト - 授業中の発表状況 - 単元ごとの小テスト	授業中の取り組み状況
2 土の基本的性質	- 水圧や流速について公式を説明できる。 - 水におけるエネルギー保存の法則を理解している。	- 水の公式を扱い分類できる。 - ベルヌーイの定理を使い水の説明ができる。	土の特性について関心を持つ。
評価方法	- 定期テスト - 単元ごとの小テスト	- 定期テスト - 授業中の発表状況 - 単元ごとの小テスト	授業中の取り組み状況

3 農業土木構造物	・コンクリートの特性や許容応力度設計法、限界状態設計法について説明できる。	・構造物設計の基礎を理解し説明できる。	・農業土木構造物や鋼構造物に関心を持つ。
評価方法	・定期テスト	・定期テスト ・授業中の発表状況	・授業中の取り組み状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	地域環境と防災	単位数	4
学 年	3	教科書	地域環境と防災（伊予農業高校）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 地域環境と防災の計画に必要な知識を身に付けます。 ② 地域環境との調和に配慮した防災を計画し、安全に配慮して行動する態度を身に付けます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 循環型社会	・自然環境についての知識を身に付け、それに類する問題についてその実例と被害について理解を深めます。 ・震災関係の知識を深め、地震の仕組みとそれに類する災害について理解します。
	2 防災	・地震や津波、土砂災害、風水害の仕組みを理解し、その対策を調査します。
2	3 地域環境と防災への取り組み	・災害が起こった際の情報確認方法を理解し、地域や自治体との協力について考えます。 ・自助、共助の考え方を学び、自身のくらしを例にその方法と重要性を理解します。
3	3 地域環境と防災への取り組み	・四国の課題点と行われている対策について理解します。 ・伊予市の防災計画や対策を学び、実際に災害が起こった際に生き残ることのできる力を身に付けます。
課題	①予習・復習…授業ごとに課題を課します。 ②夏休み課題…防災マップの調査を行います。 ③冬休み課題…市町村の防災計画を調査します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 循環型社会	・環境の意味と重要性を理解している。 ・環境問題の例を学びその対策の歴史を理解している。	・環境問題に対する取り組みについて、自身の生活からどんな活動ができるか考察する力を身に付けている。	・環境問題の対策について、その背景を積極的に調査し、自身が現在、または将来どんな活動を行えるか考察しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシートへの記入内容	・定期考査 ・ワークシートの内容 ・ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取組 ・レポート ・発問への対応等
2 防災	・地震、津波、土砂災害、風水害の仕組みについて理解している。 ・自治体との協力の重要性、災害に対する備えを理解している。	・それぞれの自然災害の発生原因と予兆について理解し、どのような場面が危険なのか考査している。 ・家族構成や近隣の環境から自治体との協力の重要性を考査している。	・過去に起こった自然災害の例とその被害について積極的に調査し、その結果を今後の対策のために活用しようとしている。

評価方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシートへの記入内容	・定期考査 ・ワークシートの内容 ・ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取組 ・レポート ・発問への対応等
3 地域環境と防災への取り組み	・自助、共助の考え方を学び、公助の難しさを理解している。 ・伊予市の防災計画について理解している。	・実際に起こった地震や津波の例から、公助の難しさについて考察している。 ・伊予市の防災計画を学び、自宅の危険要因について考察している。	・過去の災害地の状況や公助の例について自ら積極的に調査し、普段からの防災意識の必要性を考察しようとしている。 ・伊予市の防災計画について自ら進んで調査しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシートへの記入内容	・定期考査 ・ワークシートの内容 ・ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取組 ・レポート ・発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	水循環	単位数	2
学 年	3 年	教科書	水循環（実教出版）		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 地球規模の水循環が果たす社会的な意義と役割など、現状と課題を関連づけて水の有効的な活用や治水や治水などの水の制御について学習する。 ② 農業・農村の持続的な発展や国土保全・環境創造に水を有効かつ継続的に利用するための知識や技術を理解し身に付ける。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 水と農林業 2 農業水利	・農業生物の栽培における水の動きや、農地や森林の土壌との水の関係について学習します。 ・土壌の生成と構造について「農業土木設計」と連動して学習します。 ・水田の多面的機能、畑地・果樹園土壌の特徴について学習します。 ・利水と治水について学習します。
2	3 水資源の保全と活用の実践 4 水と生活環境	・中国四国農政局道前平野灌漑事業について学習します。 ・水資源の現状と課題について学習します。 ・水の有効利用と水質保全について学習します。
3	5 水と地球環境	・水循環と水収支、観測法について学習します。 ・河川流出量と流出率から重信川の状況について考察するとともに、愛媛県中予地域の気象特性についての理解を深めます。
課題	① 国家公務員試験の過去問に対応した課題に取り組みます。 ② 白水水田の水環境についてのレポートを作成します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 水と農林業	・農業生産物の栽培における水の動きや、農地や森林の土壌と水の間係を理解している。	・水田の多面的機能、農地土壌の特徴を説明できる。	・農林業を行う上で、水の動きやかかわりに関心を持っている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業中の取り組み状況	・授業への取り組み状況 ・ワークシートの記述
2 農業水利	・治水、利水施設の名称や用途について理解している。 ・農業用水の多面的機能について説明できる。	・治水と利水の特徴を説明できる。 ・水資源の現状と課題について説明できる。	・水田や畑地のかんがい排水、生産物に合わせた農業水利に興味を持っている。
評価方法	・定期考査 ・単元毎の小テスト	・定期考査 ・授業での発表	・レポート
3 水資源の保全と活用の実践	・伊予地区のため池の歴史や場所について調査し、保守点検方法について理解している。	・明治用水の背景や成果を説明できる。 ・地域の水利施設の必要性をまとめ、表現できる。	・地域における水循環の実態を理解し、水源地域を守る活動に興味を持っている。

評価方法	・定期考査 ・ワークシートの記述	・定期考査 ・レポート	・レポート
4 水と生活環境	・水の有効利用の必要性を理解している。	・資源としての水という考え方を理解し、現状と課題を理解し説明できる。	・水資源貿易と水ビジネスの日本とのかかわりについて興味をもつ。
評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業への取り組み状況
5 水と地球環境	・地球における水循環について説明できる。 ・水と河川流域の環境について理解している。	・降雨、流出について気象庁や国土交通省の Web データを活用して考察できる。	・地域の気象状況、河川状況に関心を持っている。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・レポート	・授業への取り組み状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	課題研究	単位数	4
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	① 農業の各分野について各自テーマを設定し、その課題の解決を図る学習を通じて、専門的な知識と技術の深化を図ります。 ② 自らが取り組むことで、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 計画の立案	・安易な課題設定にならないように留意しながら、テーマに沿った年間計画を立案します。
	2 研究の実践	・計画を確認し、調査、研究、実験、実践、検証等を行います。
2	2 研究の実践	・計画を確認し、調査、研究、実験、実践、検証等を行います。
3	3 発表・報告	・研究の内容や結果をまとめ分析します。
		・課題研究発表会で研究内容を紹介し、研究成果を報告します。 ・レポート作成の方法を習得します。
課題	① 予習・復習…毎回実施した内容を記録簿にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…必要に応じて実習をします。 ③ 冬休み課題…必要に応じて実習をします。 ④ そ の 他…研究報告書（レポート）を作成して提出します。 農業クラブ活動（農業鑑定、意見発表、プロジェクト発表）に取り組みます	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題研究への取組	・各科目で学習した知識と技術を活用して課題解決に取り組むことで高度な知識と技術を深化・総合化し、全体を体系的・系統的に理解し、身に付けることができる。	・学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決することができている。	・集合、移動、後片付けが迅速に行える。 ・服装が整っている。 ・期日までに提出物を出すことができる。 ・主体的かつ協力的に活動している。
評価方法	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・日々の学習内容を正しく理解し、意見発表の原稿に記すことができる。	・意見発表の原稿に、日々の学習内容をもとに自らの考えをまとめて意見を述べることができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。 ・期日までに提出物を出すことができる。
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・意見発表への取組	・意見発表への取組	・農業クラブ活動への取組の記録（農業鑑定競技、意見発表、プロジェクト発表）
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（緑地類型）	単位数	1
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 庭園の作成、管理を通して庭園の魅力に触れ、環境の創造や自然や緑地を保全する意識を育成する。 ② 国家試験造園技能士についての技術と知識を習得する。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 校内樹木管理 2 造園技能士2級・3級	・校内の庭園や緑化樹木の育成管理の技術を学習します。 ・国家資格造園技能士の知識と技術を学習します。
2	3 庭園の作成 4 校内樹木管理	・モデル庭園の作成をし、庭造りの基本を身につけるための学習をします。 ・校内の庭園や緑化樹木の育成管理の技術を学習します。 ・黒松の育成管理の学習をします。
3	5 校内樹木管理	・校内の庭園や緑化樹木の育成管理の技術を学習します。
課題	① 予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…指定された日に2回程度、各4時間実習します。 ③ 冬休み課題…指定された日に1回、4時間実習します。 ④ そ の 他…各種発表校内大会出場に向けたプロジェクト活動を実施します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	・樹木管理の基礎的な知識・技術を習得している。 ・樹木についての特徴を理解している。 ・造園技能士に関連する基礎的な知識・技術について、理解及び習得している。	・樹木管理に関する基礎的な知識・技術を活かし、実習に創意工夫が見られる。 ・樹木の管理について、安全性・効率性を考えながら作業を進めることができている。 ・造園技能士の実技・要素試験に関する思考や判断を身につけている。	・集合が時間までに行える。 ・実習ができる服装が整っている。 ・実習に必要な道具を準備できる。 ・道具を大切に取り扱い、後片付けができる。 ・実習に積極的に取り組める。 ・友人と協力して作業ができる。
評価方法	・定期考査 ・実習の取組状況	・定期考査 ・実習の取組状況 ・実習手帳の記録	・実習の取組状況 ・実習手帳の記録
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・プロジェクト活動の意義・目的を理解している。	・意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができている。 ・プロジェクト学習の内容を的確にまとめることができている。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができている。 ・
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。	・意見発表への取組	・提出物の期日を守ることができている。 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。

内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。
各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。

教 科	農 業	科 目	総合実習（環境類型）	単位数	1
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	環境開発科	副教材	なし		

学習目標	① 水稻の無化学肥料・無農薬栽培プロジェクトを中心とする体験的・探求的な学習活動を通して、自然環境、施設環境との関わりを踏まえた水稻栽培を实践できるための知識や技術を習得する。 ② 施設環境の管理活動の实践を通して、施設環境が持つ意義や役割、管理・施工方法について専門的な学習をしながら、2年次より進んだ知識や技術を習得する。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 水稻栽培の实践 2 施設環境の管理	・春～夏にかけての水稻の無化学肥料・無農薬栽培に関する知識・技術について学習します。 ・身近な施設環境の施工及び維持管理に関する知識・技術について学習します。
2	3 水稻栽培の实践 4 施設環境の管理	・夏～冬にかけて水稻の無化学肥料・無農薬栽培に関する知識・技術について学習します。 ・身近な施設環境の施工及び維持管理に関する知識・技術について学習します。
3	5 施設環境の管理	・身近な施設環境の施工及び維持管理に関する知識・技術について学習します。
課題	① 予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…指定された日に2回程度、各4時間実習します。 ③ 冬休み課題…指定された日に1回、4時間実習します。 ④ そ の 他…各種発表校内大会出場に向けたプロジェクト活動を実施します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	・水稻栽培の基礎的な知識・技術を習得している。 ・水稻栽培における無化学肥料・無農薬栽培についての特徴を理解している。 ・施設環境の管理作業に関連する基礎的な知識・技術について、理解及び習得している。	・栽培管理に関する基礎的な知識・技術を活かし、実習に創意工夫が見られる。 ・施設環境の管理について、安全性・効率性を考えながら作業を進めることができている。 ・質問に対して自らの考えを発言できる。	・集合が時間までに行える。 ・実習ができる服装が整っている。 ・実習に必要な道具を準備できる。 ・道具を大切に取り扱い、後片付けができる。 ・実習に積極的に取り組める。 ・友人と協力して作業ができる。
評価方法	・定期考査 ・実習の取組状況	・定期考査 ・実習の取組状況 ・実習手帳の記録	・実習の取組状況 ・実習手帳の記録
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・プロジェクト活動の意義・目的を理解している。	・意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができている。 ・プロジェクト学習の内容を的確にまとめることができている。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができている。 ・

評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。	・意見発表への取組	・提出物の期日を守ることができている。 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において ABC の 3 段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5 段階で評価します。			